

令和元年12月13日

保護者 様

いわき市立大野第二小学校長 千葉 英一

学校評価アンケートの集計結果について

大雪の候、皆様方におかれましてはご清栄のことと拝察いたします。また、日ごろより本校教育活動にご理解とご協力を賜りますことに、厚く感謝申し上げます。

さて、過日は学校評価アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。皆様から頂戴いたしました貴重なご意見を今後の学校教育に生かして、よりいっそうの充実を図る所存です。集計結果のデータ一覧と分析についてお知らせいたしますので、ご覧ください。

記

1 データ一覧の見方

- ① 回答は数値化して分析しています。最低が1、最高が4、中央値は2.5です。
- ② 回答値が3.5を超えた項目については目標が達成されたととらえています。
- ③ 回答値が3.5に届かない項目については、今後改善の余地があるとして、数値を□で囲んでいます。
- ④ 記述式の評価については、記載不可のものは掲載していません。
- ⑤ 昨年度とアンケート項目が同じですので、同一学年による推移を一覧にしました。その中で、昨年よりも有意な数値で向上しているものには青の網掛けを、下がっているものについてはオレンジの網掛けをしてあります。

2 全体的な傾向について

- ① 児童、保護者の回答のいずれも、おおむねよい傾向を示しています。回答の平均値は中央値の2.5を大きく上回っています。
- ② 児童、保護者、教職員の回答にはばらつきがあります。児童が高い自己評価をしているものの中に保護者の回答が低いものもあります。これらは、児童の活動内容について十分に周知できていないこと、保護者の願いが児童よりも高水準にあること、などが原因と考えられます。
- ③ 昨年度との比較でも、児童はおおむね回答平均値が上昇していますが、保護者は低下しているものも多くなっています。学年の人数が少ないため、個々の回答が平均値に大きく関与しているためです。個別の分析をして、担任からのアプローチに反映させていきたいと考えています。

3 特によい傾向にあると思われる項目(児童・保護者ともに3.75以上の回答になっている項目)

- ① 子どもたちは毎日笑顔で元気よく登校している。【元気な生活】
- ② 子どもたちは友だちと仲良く協力して生活している。【仲の良さ】
- ④ 思いやりの心を育てる意図を持って縦割りの活動を設定している。【思いやりの心】
- ⑥ 互いを認め合う人間関係を築くように学級活動を工夫している。【認め合う人間関係】
- ⑪ 子どもたちの変容を見取りながら指導を展開している。【変容観察・形成的評価】
- ⑯ 体育の時間に健康と運動への意欲を高める手立てを工夫している。【運動意欲の向上】
- ⑳ 日常生活や授業でも防災教育を取り入れている。【防災教育】

- ・ 学校生活の最大の基盤となる子どもたちの健康と笑顔を今年度も守り育てることができていると評価していただいています。どの項目も、子どもたちの心身の健康には欠かすことのできない

要素です。今後ともいっそう力を入れて指導していきたいと考えています。

4 早急に改善すべき課題のある項目(児童・保護者ともに3.5以下の回答になっている項目)

⑱ 家庭と連携して子どもたちの心の健康に配慮している。【家庭との連携】

・ 家庭への情報発信はいろいろな形で行っているつもりではありますが、記述式の評価の中にも「発信内容の偏り」「掲載される児童の偏り」などが指摘されており、大いに反省しているところでもあります。また、発信内容と子どもたちの心の健康との関連ということでは、保健日よりや給食日より頼っている面もありますので、やや少ないのかもしれませんが。

それよりも、家庭に電話したり、気軽に尋ねていたりすることが少ないと感じていらっしゃるご家庭も多いのかと思われます。ホームページに掲載はされているけれど、保護者としては担任と直接話し合うことで得られる我が子の情報を欲しているものと感じています。時間を見て電話をしたり、時には家庭訪問をさせていただくことも必要なのではないかと考えています。

5 児童と保護者の回答に大きな差が見られる項目【児童と保護者のとらえ方の乖離】

③ 子どもたちは大きな夢を持ち、毎日の生活を頑張っている。【夢を持って頑張る心】

児童 3.88 保護者 3.31

⑧ いろいろなことに挑戦する機会を活動に組み込んでいる。【多様な体験活動】

児童 3.50 保護者 3.81

⑩ 既習事項を生かす問題解決型の学習を設定している。【問題解決型の学習】

児童 3.94 保護者 3.50

⑬ 子どもたちが自分の考えを持てる場を設定している。【考えを持つ場面の保障】

児童 3.69 保護者 3.31

⑭ 子どもたちが自分の言葉で表現できる場を設定している。【考えを表現する場の保障】

児童 3.75 保護者 3.31

⑮ 子どもたちが考えを交流させて深めるための手立てを工夫している。【考えの交流と深化】

児童 3.81 保護者 3.50

・ 子どもの持つ夢は曖昧で変化しやすいものです。大人の持つ夢は現実的で目標にしやすいものです。当然違いはありますし、親の願いを子どもがどのように受け止めているかが明らかになってくるのは、もう少し先のことだと考えます。子どもたちが「夢を持つ」ことの自覚は、昨年度よりも0.40ポイント上昇しています。それが、大人にはうまく伝わっていないのだと考えています。

・ 上とは逆に、多種多様な挑戦について保護者から高評価をいただいています。小規模校の利点を最大に生かして、大規模校では考えられない全校一緒の活動により、低学年も高学年も様々なチャレンジをしています。しかし、子どもたちにとっては、それがあたりまえのことになりつつあるのだと思います。昨年度よりもマイナスのポイントとなっているのがその証です。つまり、子どもたちの意表を突くような新しい試みが、今年度は少なかったのだと反省しています。

・ その他の項目から読み取れるものは、授業内容です。これらはすべて共通しています。少人数だと「自分の考えが持てない」「考えを表現できない」というのは誤りです。「考え」とは自分の頭の中で組み立てていくものだからです。子どもたちには、決して人頼みにしないで自分の力で解決できる課題をたくさん与えています。これも小規模校の強みです。考えの交流にしても、他校では味わえない他学年との交流による意見交換が行われ、しかも互いに尊重し合う状況まで見

られています。全校児童で市内の見学をしたり、遠足をしたり、環境学習や人形の絵付けをしたりする中で、年の差など関係ない磨き合いが見られます。

大人数でしか味わえないこともあります。それらは、来年度の教育課程に反映させていく予定です。他校との交流、子どもたちだけでの電車移動などを通じて社会性を高めていきます。

6 前年度との差異について

- ① 児童の回答についてはやや下がっている項目のある学年もあるが、おおむね前年度よりも向上しています。学級の人数が少ないため有意な比較ができにくいのですが、子どもたちの自己評価は前年度を上回っており、自己達成感、自己満足感、自己有用感が高まっていることが感じられます。
- ② 保護者についても、人数が少ないため有意な比較がしにくいですが、増減数がほぼ同じ学年が多い中、6年生だけがポイントが下がっている項目がほとんどであり、それが全体にも大きく反映しています。

6年生の3人は、学校のリーダーとして、学習面、生活面、行事などすべての面で大活躍をしています。どこに出しても恥ずかしくない子どもたちです。先日のステューデントシティでも、他校の5年生に配慮して控えめながら、上手にリードして会社を運営している様子が見えましました。学力は相当以上に身につけています。何よりも、3人の個性・人間性はすばらしく、まさに大野の宝です。が、しかし、保護者の回答が下がっていることについて、大いに反省し、改善点を洗い出していきたいと考えています。

方向性としては、特にポイントが下がっている「学校行事には子どもたちの企画や思いを反映させている」という項目です。確かに多様な教育活動を展開してはいますが、それらのすべてが子どもたちが欲しているものではなかったでしょうし、自分たちの意見が反映しているとも考えにくかったのではないかと感じています。そのような思いが、帰宅後の保護者との会話の中で散見された結果が、ポイントの低下につながったのではないかと考えています。

ある児童が言いました。「ステューデントシティに農業がないのはなぜですか?」「私たちは保育園児にぶつけられるために落花生を作っているのですか?」それを聞いたとき、はっとしました。ステューデントシティは結局「働き方」は教えてくれるけれども、「将来の希望」を見つけるものではないのだと。農園についても、もっともっと子どもたちのやりたいことをやる場にならなかったのかと。失敗させたくないばかりに大人が手をかけすぎてはいけないのだと思います。6年生には彼らなりに身につけた考えがあります。修学旅行でのマイナーな場所巡りにみられるように、自分たちで考えて自分たちの判断で行動することが、何よりも力をつけてくれるのです。

7 最後に

今年も数多くのことを子どもたちに教えてもらいました。日常生活の中で、行事で、清掃で、どこかに出かけたとき。子どもたちは一個の人間として、本気になって私たち大人に接し、問いかけてくれます。子どもたちの笑顔が何より大切なものです。子どもたちの反応そのものが、教育活動の成否を映し出す鏡です。

これからも、子どもたちとともに歩んでいく学校でありたいと強く考えます。そのためにも、保護者の皆様方にご理解を求め、ともに手を携えて子どもたちの教育にあたっていきたいと考えています。これからも、よろしくお願いたします。

【学校からの発信に対する評価】

- すべてのお手紙を毎日楽しく見させて頂いています。今後も楽しみにしています。
- 広畑タイムズは毎日持ってくるので楽しく読ませて頂いています。子どもたちがどんなことをしているのか写真もあってとてもわかりやすいです。学年便りは毎月の行事予定が分かってとても助かります。ぐんぐんも毎回読ませて頂いています。
- 広畑タイムズには他の学年の児童の作品や作文なども掲載されているので、高学年になるとこんなに文章を書くのが上手になるのかと感心しています。日ごろの学校生活の様子も知ることができるので楽しく読ませて頂いています。学年日よりは予定なども一か月分書いてあるので予定を把握するのに役立っています。
- 子どもたちのあふれる笑顔や感想など一人一人の様子が分かったりして毎回とても楽しみです。
- 学校日よりでは家では見られない姿を見ることができ、とてもうれしく思っています。HPでも動画や面白いコメントがあり、学校の様子がよく分かり、安心することができます。
- 常日ごろ学校での様子をわかりやすく記載してあり、とても楽しく読ませてもらっています。異学年の書道・交錯など、あまり見る機会がないのでとてもよい。
- 広畑タイムズ、毎日発行はちょっとと思うときがありますが、子どもたちの様子が分かるので・・・。ただ、低・中学年の掲載が多いと感じるのは私だけでしょうか？各学年だよりに学年の子どもたちの様子の写真を載せてもらうのもいいかなと思います。担任の先生からの子どもたちの様子等をもっと聞きたいなと思います。学校評価にあたって、授業参観、道徳ばかりなので、国語、算数など普通の授業も見たいと思います。評価がなかなか難しいです。
- 学校の中の様子は子どもの話だけでは分からないこともあるので、毎回どれもとても楽しく拝見しています。これからもよろしくお願いします。
- 学校だよりをはじめ、様々なお知らせを発行していただき、ありがとうございます。学校行事や普段の様子、学校でどのようなことに力を入れているのかなどが分かり、うれしいです。学校のホームページでは日々の生活の写真や動画が毎日更新されていて見るのが楽しみです。これからもよろしくお願いします。
- 毎日発行される学校だよりや1日に何度も更新されるホームページなどで学校の様子がよく分かり、いつも楽しみに見ております。私の姉などもいつもホームページを見ていて、写真などを祖父母に送ってくれていて、学校の様子を見ているそうです。つまりくともありますが、先生方のご協力により楽しく学ぶことができます。いつも感謝しております。ありがとうございます。ご近所の方も回覧板で回る学校だよりを見ているとのことで、いつも見ているよとお話ありました。
- 市内で一番学校だよりの発行部数が多い小学校で(多分)日々の様子が手に取るように分かることがありがたいと思います。私の出勤前には学校に来ていて、私が帰るころにも電気がついていたりいなかったりするので、一步間違えると世間で言う『ブラック企業』にもとらえられかねないと思いますが、そこには先生方の愛があふれる授業に伴う労働で、ついつい長時間労働してしまっているのではないかと推察します。脱線しましたが、家庭では見られない表情を届けていただける学校だより、ネタ切れはなくとも息切れせぬよう、頑張りすぎずによろしくお願いします。
- お便りはすべて白黒印刷でよいと考えます。ホームページにも写真はあるので色味は伝わりますし、何より印刷代がバカにならないと、余計な心配をしております。ホームページの記事は99%校長先生だと思いますが、宮田先生や緑川先生にもご登場いただいてはどうでしょうか？
- いつも細やかに子どもたちの様子を見取り、わかりやすく伝えていただきありがとうございます。毎日発行するという事は本当に大変なことですのでありがたく読ませてもらっています。